

平成 27 年度事業報告  
(平成 26 年 9 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日)

庶務報告

会員推移 (平成 27 年 8 月 31 日現在)

	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7
正会員	6, 773	6, 893	7, 007	7, 156	7, 252
名誉会員	55	56	57	58	60
功労会員	190	196	221	254	286
賛助会員	23	21	21	20	20
「臨床血液」購読数	138	138	126	118	112

役員推移

	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7
理事	25	25	25	25	25
監事	2	2	2	2	2
評議員	717	747	731	708	687

会費納入状況 (2015 年度)

	既納者数	未納者数	計
正会員	6, 416	836	7, 252
賛助会員	18	2	20
計	6, 434	838	7, 272

物故者

名誉会員 漆崎 一朗 中村 徹  
功労会員 金山 良男 神前 五郎 柴田 宣彦 杉島 聖章 若林 芳久  
評議員 木村 之彦 通堂 満

会 議

学会総会 (第 77 回総会)

理事会	平成 26 年 10 月 31 日	大阪国際会議場 (大阪)
	平成 26 年 11 月 1 日	大阪国際会議場 (大阪)
	平成 27 年 1 月 30 日	日内会館 (東京)
	平成 27 年 5 月 8 日	東京国際フォーラム (東京)
	平成 27 年 7 月 3 日	日内会館 (東京)
	平成 27 年 9 月 25 日	日内会館 (東京)
プログラム企画委員会	平成 26 年 10 月 30 日	大阪国際会議場 (大阪)
	平成 27 年 1 月 16 日	東京国際フォーラム (東京)
・第 77 回学術集会プログラム編成委員会	平成 27 年 5 月 31 日	東京国際フォーラム (東京)
・第 78 回学術集会プログラム委員会	平成 27 年 5 月 31 日	東京国際フォーラム (東京)
「I J H」編集委員会	平成 26 年 11 月 2 日	大阪国際会議場 (大阪)
	平成 27 年 1 月 9 日	日内会館 (東京)
「臨床血液」編集委員会	平成 26 年 11 月 2 日	大阪国際会議場 (大阪)
専門医認定委員会	平成 27 年 10 月 31 日	大阪国際会議場 (大阪)
	平成 27 年 2 月 8 日	メルパルク京都 (京都)
	平成 27 年 8 月 8 日	日内会館 (東京)
新専門医制度対応WG委員会	平成 27 年 9 月 25 日	日内会館 (東京)

学術・統計調査委員会	平成 26 年 11 月 2 日	大阪国際会議場 (大阪)
・MM 研究実行委員会	平成 26 年 12 月 27 日	日内会館 (東京)
	平成 27 年 4 月 11 日	日内会館 (東京)
・MPN 研究実行委員会	平成 26 年 12 月 27 日	日内会館 (東京)
	平成 27 年 6 月 28 日	日内会館 (東京)
新ターゲット実行委員会	平成 26 年 11 月 2 日	大阪国際会議場 (大阪)
診療等委員会	平成 26 年 11 月 2 日	大阪国際会議場 (大阪)
造血器腫瘍ガイドライン委員会	平成 26 年 10 月 31 日	大阪国際会議場 (大阪)
教育委員会	平成 26 年 11 月 1 日	大阪国際会議場 (大阪)
・研修医のための血液セミナー企画委員会	平成 26 年 11 月 1 日	大阪国際会議場 (大阪)
	平成 27 年 7 月 12 日	大津プリンスホテル (滋賀)
広報委員会	平成 26 年 11 月 1 日	大阪国際会議場 (大阪)
・広報ワーキング委員会	平成 27 年 6 月 30 日	日内会館 (東京)
賞等選考委員会	平成 26 年 11 月 1 日	大阪国際会議場 (大阪)
	平成 27 年 6 月 30 日	日内会館 (東京)
倫理委員会	平成 26 年 11 月 2 日	大阪国際会議場 (大阪)
COI 委員会	平成 26 年 11 月 2 日	大阪国際会議場 (大阪)
	平成 27 年 8 月 21 日	京都事務局 (京都)
国際委員会	平成 26 年 11 月 1 日	大阪国際会議場 (大阪)
・第 6 回 JSH 国際シンポジウム企画委員会	平成 26 年 10 月 31 日	大阪国際会議場 (大阪)
・第 7 回 JSH 国際シンポジウム企画委員会	平成 27 年 5 月 23 日	軽井沢プリンスホテル
総務委員会	平成 27 年 1 月 16 日	東京国際フォーラム (東京)
	平成 27 年 9 月 25 日	日内会館 (東京)
・新評議員選出評価委員会	平成 27 年 4 月 17 日	日内会館 (東京)
	平成 27 年 5 月 8 日	日内会館 (東京)
・新評議員選出委員会	平成 27 年 8 月 11 日	日内会館 (東京)
財務委員会	平成 27 年 7 月 25 日	日内会館 (東京)
	平成 27 年 9 月 25 日	日内会館 (東京)
アドバイス委員会	平成 26 年 11 月 1 日	大阪国際会議場 (大阪)

## 事業報告

### 研究支援事業

#### 学術集会の開催

#### 学術集会

##### 第 76 回日本血液学会総会

会期：平成 26 年 10 月 31 日 (金) ～2 日 (日) 3 日間

会場：大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル大阪

会長：金倉 譲 (大阪大学)

参加者：6,233 名 (海外 180 名含む)

メイン・テーマ：伝統の継承と未来への挑戦

Succession of Tradition and Challenges Towards the Future

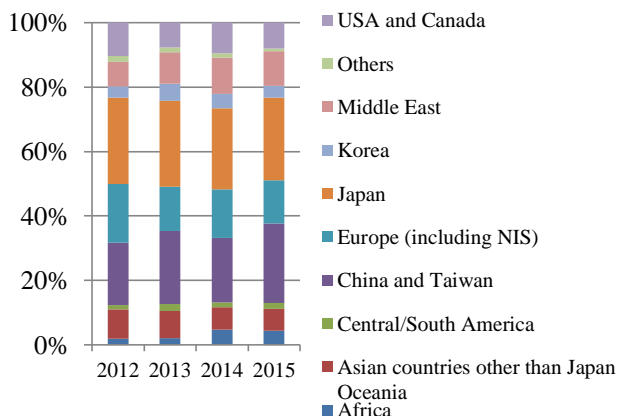
プログラム 会長講演 1 題

特別講演 3 題

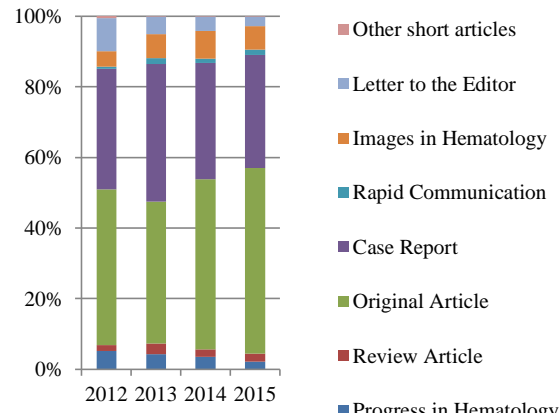
JSH 学会賞受賞講演 1 題  
 教育講演 68 題 (うち再演 21 題)  
 シンポジウム 12 テーマ (56 題)  
 ( Presidential Symposium、JSH-ASH Joint Symposium、  
 JSH-EHA Joint Symposium を含む)  
 パネルディスカッション 1 テーマ (4 題)  
 プレナリー 6 題  
 一般口演 552 題  
 ポスター 792 題  
 Morning Discussion 4 テーマ  
 SETP (Scientific Exchange Training Program) 3 テーマ  
 コーポレートセミナー 46 セミナー (54 題)  
 公開シンポジウム  
 NCCN ガイドライン日本語版造血器腫瘍領域公開記念シンポジウム

「IJH」(International Journal of Hematology) 誌

地域別投稿数



論文種別投稿数



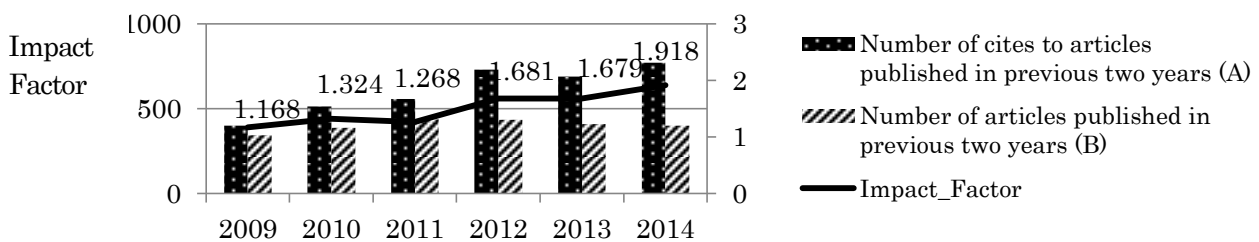
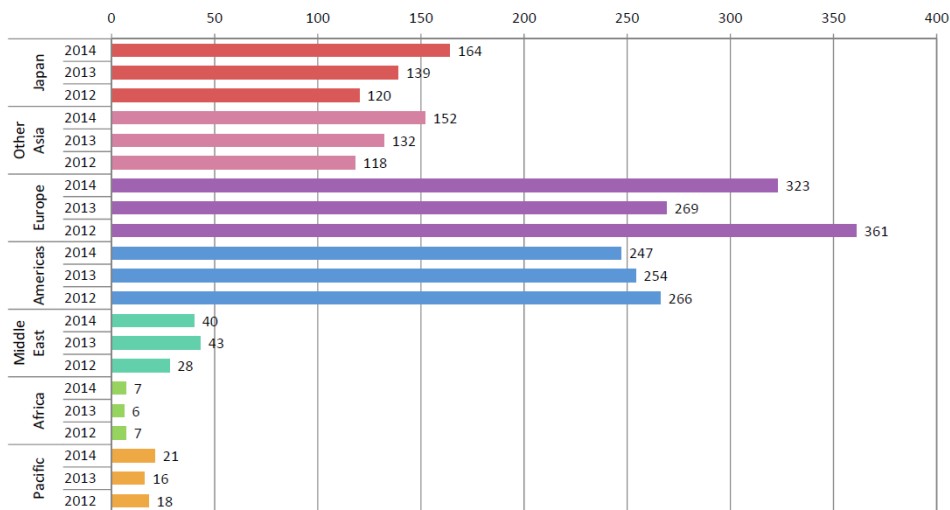
投稿数：2012年938件、2013年883件、2014年884件、2015年619件(9/10現在)

地域別受理率

2012

Section/Category	2012			2013			2014			2015		
	Accept	Reject	A/Rate	Accept	Reject	A/Rate	Accept	Reject	A/Rate	Accept	Reject	A/Rate
Africa	4	14	22.2%	3	15	16.7%	1	41	2.4%	1	27	3.6%
Other Asia	8	74	9.8%	6	66	8.2%	10	50	16.1%	1	40	2.4%
Central/South America	2	10	16.7%	1	17	5.6%		13	0.0%	1	11	8.3%
China and Taiwan	29	144	16.8%	28	166	14.4%	24	154	13.5%	17	135	11.2%
Europe (including NIS)	30	133	18.3%	30	88	25.4%	33	99	24.8%	17	66	20.5%
Japan	134	107	55.6%	121	107	52.8%	113	102	50.9%	70	89	44.0%
Korea	7	25	21.9%	21	24	46.7%	13	27	32.5%	5	17	22.7%
Middle East	5	63	7.4%	3	81	3.6%	10	87	10.1%	3	63	4.5%
Others	3	13	18.8%		13	0.0%	3	9	25.0%	1	4	20.0%
USA and Canada	33	61	35.1%	21	45	31.8%	22	58	25.9%	12	38	24.0%
<b>総計</b>	<b>255</b>	<b>644</b>	<b>28.3%</b>	<b>234</b>	<b>622</b>	<b>27.3%</b>	<b>229</b>	<b>640</b>	<b>25.8%</b>	<b>128</b>	<b>490</b>	<b>20.7%</b>

2012-2013 年に出版された IJH の地域別引用状況 (2014)



「臨床血液」誌 《2015. 9. 15 現在》

#### 2014年発刊状況

巻/号	頁数	頁数	総会論文	総説	臨床研究	症例	短報	
55/1	1 — 156	156	0	10	2	2	1	
55/2	157 — 286	130	0	8	0	4	1	
55/3	287 — 384	98	3	1	0	8	0	
55/4	385 — 486	102	4	0	2	5	1	
55/5	487 — 604	118	4	0	2	5	1	
55/6	605 — 726	122	7	1	0	5	0	
55/7	727 — 870	144	11	0	0	2	0	
55/8	871 — 994	124	5	1	0	4	1	
55/9	995 — 1708	713	第76回総会 プログラム・抄録号					
55/10	1709 — 2254	546	第76回総会 教育講演号 (64本)					
55/11	2255 — 2378	123	0	0	2	7	2	
55/12	2379 — 2487	109	0	1	1	4	2	

#### 2015年発刊状況

巻/号	頁数	頁数	総会論文	総説	臨床研究	症例	短報
56/1	1 — 98	98	0	1	0	5	5
56/2	99 — 242	144	0	12	0	4	0
56/3	243 — 356	114	0	8	0	4	1
56/4	357 — 452	95	4	0	1	5	1
56/5	453 — 574	121	2	0	1	6	1
56/6	575 — 748	173	12	0	2	6	0
56/7	749 — 934	186	9	6	2	4	2

56/8	935	—	1115	181	12	5	2	3	1
56/9	1117	—	1859	743	第77回総会 プログラム・抄録号				
56/10	1860	—	2284	425	第77回総会 教育講演号 (47本)				
56/11		—			0	3	1	7	0
56/12		—							

●年度別採用率

	投稿数	採用数	採用率
2008年	92	61	66.3%
2009年	104	73	70.2%
2010年	96	69	71.9%
2011年	101	70	69.3%
2012年	99	64	64.6%
2013年	92	68	73.9%
2014年	98	68	69.4%

●投稿論文テーマ

	2014	2013	2012
1 悪性リンパ腫・リンパ増殖性疾患	15	20	24
2 薬剤や治療による毒性・効果	12	9	5
3 急性白血病	7	11	9
4 造血幹細胞移植	10	6	10
5 感染症	9	4	7
6 血小板・凝固異常	11	8	10
7 骨髄増殖性腫瘍	8	8	4
8 骨髄腫とその関連疾患	15	8	16
9 MDS・貧血・輸血ほか	11	18	14

●採用日数平均

53巻	128.4日
54巻	98.7日
55巻	87.2日

●55巻取扱い論文数

依頼論文数	202
投稿数	114
採用数	98
不採用数	68
取り下げ数	24
	6

●55巻採用論文内訳

総説	3
臨床研究	7
症例報告	45
短報	13

《連載》

- Picture in Clinical Hematology
- Introduce My Article

国 際

- ・第6回国際シンポジウム (The 6th JSH International Symposium in Karuizawa)

会 長 大屋敷一馬

日 時 2015年5月22日 (金) ~23日 (土)

会 場 軽井沢プリンスホテル ウェスト (長野県軽井沢市)

テーマ A New Era of Bone Marrow Failure, Including MDS and MPN

- ・第76回日本血液学会学術集会におけるASH/EHA Special Lecture/ASH-JSH Joint Symposium/EHA-JSH Joint Symposium/Asian Joint Session/SETP

ASH Special Lecture

Linda J. Burns “Transplantation for non-Hodgkin lymphoma: impact of donor source and conditioning regimen”

ASH-JSH Joint Symposium <New aspects of myeloproliferative neoplasms (MPNs)>

Ruben A. Mesa “Use of JAK2 Pathway Inhibitors for MPNs”

Ronald Hoffman “Myelofibrosis: Biology and Treatment”

Kazuya Shimoda “Genetic and epigenetic abnormalities in myeloproliferative neoplasms”

Hirotohi Sakaguchi “Myeloproliferative neoplasms of childhood”

EHA Special Lecture

Christine Chomienne “The cancer stem cell concept: can it enter into our future clinical practice?”

EHA-JSH Joint Symposium <Recent advance in genetic abnormalities of hereditary hematologic disorders>

Achille Iolascon “New insights in congenital dyserythropoietic anemias”

Lydie da Costa “Ribosomal abnormalities in anemias”

Seishi Ogawa and Kenichi Yoshida “Genetic analysis of hereditary hematologic disorders:  
overview”

Hideki Muramatsu “Comprehensive molecular screening system for pediatric bone marrow  
failure syndromes”

Tsutomu Toki “Insight into molecular mechanisms of pathology in Diamond-Blackfan anemia”

Asian Joint Panel Discussion <Bone marrow failure in Asia>

台湾: Hsin-An Hou “Myelodysplastic syndrome in Taiwan: Clinical features, risk stratification  
and treatment choices”

タイ: Surapol Issaragrisil “Aplastic anemia in Thailand”

中国: Xiao-Jun Huang “Haploidentical hematopoietic stem cell transplantation without in vitro  
T-cell depletion in the treatment of severe acquired aplastic anemia -  
experience from China”

韓国: Jun Ho Jang “Diagnosis and treatment of bone marrow failure syndromes”

インド: Manoranjan Mahapatra “Aplastic anemia: Challenges in management in India”

シンガポール: Aloysius Ho “Bone Marrow Failure Syndromes in Singapore”

日本: Takahiro Suzuki “Impacts of iron overload on hematopoiesis and hematopoietic  
microenvironment”

• 20<sup>th</sup> EHA Congress in Vienna における EHA-JSH Joint Symposium

“Basic aspect concerning mechanism of action of lenalidomide in MM”

Hiroshi Handa (Tokyo Medical University, Japan)

“The role of lenalidomide in MM from a clinical point of view: from smoldering to RRMM  
patients”

Marivi Mateos (University Hospital of Salamanca/IBSAL, Salamanca, Spain)

• 若手研究者への 20th EHA Congress Travel Award 支援

演題が採択された以下の 5 名にトラベルアワードとして 20 万円を本学会より補助。

片岡 圭亮 (京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学)

The landscape of somatic alterations in adult T-cell leukemia/lymphoma

杉原 英志 (慶應義塾大学医学部先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門)

New mouse model for mature B cell lymphoma reveals the requirement for Fas downregulation  
in lymphomagenesis

相馬 俊介 (慶應義塾大学医学部 血液内科)

A critical role for O-GlcNAcylation in murine fetal liver and adult hematopoiesis

北舘 明宏 (秋田大学医学部 血液腎臓膠原病内科)

Silencing progression of tumor suppressive miRNAs essentially contributes to develop  
aggressive T-cell lymphoma

成田 敦 (名古屋大学大学院医学系研究科 小児科)

Predicting responsiveness to immunosuppressive therapy using a combination of mino

rparoxysmal nocturnal hemoglobinuria clones and lymphocyte telomere length in pediatric  
aplastic anemia

• EHA-JSH Collaborative Exchange Program 2015

日本からヨーロッパへの派遣者には 100 万円を本学会より補助。

(JSH) 吉田 奈央 (名古屋第一赤十字病院小児医療センター 血液腫瘍科)

派遣先: Department of Pediatrics and Adolescent Medicine, Division of Pediatric Hematology and Oncology University of Freiburg (Germany)

(EHA) Alessandra Balduini (Department of Molecular Medicine, University of Pavia (Italy))

派遣先: 京都大学 iPS 細胞研究所臨床応用部門

・ JSH-KSH Fellowship Exchange Program 2015

日本から韓国への派遣者には 30 万円を本学会より補助。

(JSH) 橋本 尚佳 (国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科)

派遣先: Internal Medicine, Seoul National University

## 診療

1) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議への要望

- ・ボルテミゾブ 共同提出: リンパ網内系学会
- ・ベンダムスチン 共同提出: リンパ網内系学会
- ・リツキシマブ ITP (成人) 共同提出: 日本血栓止血学会
- ・アレムツズマブ 共同提出: 造血細胞移植学会、日本リンパ網内系学会、日本小児血液・がん学会

2) 厚生労働省 指定難病検討委員会への情報提供 (第二次実施分)

- 巨赤芽球形貧血、後天性赤芽球癆、遺伝性球状赤血球症、口唇赤血球症、鎌状赤血球症、不安定ヘモグロビン症、グルコース-6-リン酸脱水素酵素欠乏症、ピルビン酸キナーゼ欠乏性貧血、周期性血小板減少症、メイ・ヘグリン異常症、カサバツハ・メリット症候群、ベルナルド・スーリエ症候群、血小板無力症、血小板放出機構異常症

3) 平成 28 年度診療報酬改訂案の提出

① 医療技術評価 (厚生労働省 医療技術評価分科会へ提出)

※2015 年 8 月 20 日厚生労働省「医療技術の評価・再評価に係るヒアリング」に出向

- ・ADAMTS13 活性測定 (未収載)
- ・ADAMTS13 インヒビター力価測定 (未収載)
- ・造血器腫瘍細胞抗原検査 (既収載)

② 医学管理料 (内保連から保険局医療課へ提出)

- ・サリドマイド等薬剤管理に関する医学管理料 (未収載)
- ・15 歳以上の (思春期) 未成年の血液腫瘍患者の入院管理加算 (未収載)

③ 医薬品 (厚生労働省 医薬食品局扱い)

- ・特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) に対するリツキシマブ (適応拡大)
- ・血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) に対するリツキシマブ (適応拡大)
- ・G-CSF 製剤の自己注射加算の対象に「がん化学療法後の好中球減少症」を追加 (加算)

④ 日本血栓止血学会との共同提案

- ・医学管理料 在宅自己注射指導管理料 (血友病) (既収載)
- ・医学管理料 血友病地域連携診療管理料 (未収載)

4) その他

- ・厚生労働省 供給停止予定品目の確認 (日本医師会疑義解釈委員会)
- ・「成人に対する骨髄穿刺の穿刺部位に関する注意文」日血 HP へ再掲載

## 造血器腫瘍ガイドライン

- ・「造血器腫瘍診療ガイドライン」年次改訂 (ver. 1.2)
- ・「造血器腫瘍診療ガイドライン」第 2 版改訂準備
- ・ NCCN 造血器関連ガイドラインの監訳

## 学術調査事業

### 学術 統計調査

#### 1) 新TARGET について

##### 観察研究 1

「日本国内における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

登録症例数：506 例（予定登録数 500 例）（達成率 101.2%）

主要評価項目：CML 確定診断日から 5 年時点における全生存率(OS)

##### 観察研究 2

「日本国内における 2nd または 3rd line イマチニブ既治療慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

登録症例数：98 例（予定登録数 110 例）（達成率 89.1%）

主要評価項目：2nd line 以降の薬剤投与開始日から 3 年時点における全生存率(OS)

#### 5/1 よりプロトコールを改訂

- ① 国際標準法での BCR-ABL 測定を保険診療で実施する。
- ② BCR-ABL 測定の実施機関を BML のみでなく SRL にも拡充する。
- ③ ボスチニブ登録例も登録可能とする。

#### 2) 血液疾患登録事業について

##### ① 地区別疾患登録委員

- <北海道地区> 豊嶋 崇徳（北海道大学）
- <東北地区> 伊藤 悦朗（弘前大学）、石田 陽治（岩手医大血液内科）  
張替 秀郎（東北大学）
- <関東地区> 小松 則夫（順天堂大学）、木崎 昌弘（埼玉医科大学）
- <東海地区> 清井 仁（名古屋大学）、堀部 敬三（名古屋医療センター）  
齋藤 俊樹（名古屋医療センター）、飯田 真介（名古屋市立大学）
- <北陸地区> 中尾 眞二（金沢大学）
- <近畿地区> 松村 到（近畿大学）
- <中国・四国地区> 鈴木 律朗（島根大学）
- <九州地区> 高松 泰（福岡大学腫瘍・血液・感染症内科）

##### ② データの二次利用希望があった際の手順

- ・ 研究申請者は学術 統計調査委員会に希望する研究についての概略を提出
- ・ 学術 統計調査委員会でも学的価値について審査
- ・ 学術 統計調査委員会承認されれば倫理委員会で審査
- ・ 倫理委員会の承認で承認されれば事務手続きを行う。
- ・ 学術 統計調査委員会承認された研究テーマ、研究者などの全体像を把握するとともに各研究の進捗状況をチェックする。

##### ③ 疾患登録事業の実績

第 77 回学術集会会場に掲示並びにHPに掲載

#### 3) 多発性骨髄腫(MM) 観察研究

#### 4) 骨髄増殖性腫瘍(MPN) 観察研究

## 人材育成事業

### 専門医認定制度

#### 1) 専門医等取得状況 平成 27 年 7 月末日現在

専門医	3,449 名
指導医	1,641 名
研修施設	488 施設



## 2) 専門医認定試験

平成27年度(第25回)血液専門医認定試験

日時 平成27年6月28日(日) 13:00~15:00

会場 メルパルク京都 6階 会議室(京都市)

受験者数 236名(欠席 2名)

合格者 198名 不合格者 36名(合格率 83.89%)

## 3) 専門医テキスト改訂版刊行(平成27年5月)・・・教育委員会との共同事業

・血液研修施設に1部無料配布

## 4) 新専門医制度対応WGを設置

## 教育

### 1) 第8回「研修医(初期・後期)のための血液学セミナー」実施報告

開催形態: 日本血液学会の主催

日時: 平成27年7月11日(土) - 7月12日(日)

\* 7月10日(金)は学術委員会共催サテライトプログラム

会場: 大津プリンスホテル

対象: 研修医(前期, 後期を含める) + オブザーバー

参加人員: 通常枠 103名, オブザーバー枠 23名, 企業枠 25名

講師・座長 40名

講習時間・形態: 第7回とほぼ同じ内容。

全体講義: レクチャー2コマ, ケーススタディー5コマ

グループスタディー: 4コマ

モーニングレクチャー: 2コマ

ランチョンセミナー: 2コマ

申込総数 一般参加: 172名, オブザーバー: 10名, 企業参加: 26名

アンケート結果

一般参加	平均	87.2	点
オブザーバー	平均	83.9	点
企業参加	平均	70.0	点

\* 来年度からは一般参加枠を増員の予定で計画中

### 2) 血液専門医テキスト改訂: 専門医認定医委員会との共同作業

2015年5月末に出版

### 3) 研修医を対象とした血液学テキストの作製に関して

専門医認定委員会との共同作業

作業現状: 出版社(南江堂)との打ち合わせ開始

## 普及啓発事業

### 広報

#### 1) 日本血液学会ニュース(メール便) 定期便および臨時便の発行

① 平成27年度(平成26年9月~平成27年8月)の発行回数

定期便12回

臨時便16回: 学術集会、JSH国際シンポジウム、研修医のための血液学セミナーなどの案内

日本学術振興会賞、日本学術振興会・育志賞の募集案内など

② 上記①以外のニュース便を配信

2014年10月: 第2回定時社員総会のご案内(インターネットによる議決権行使)

③ 海外へのプロモーション

EHA, ASH Congress にて取得した海外研究者・関係者のEメールアドレス宛に、  
JSH国際シンポジウムや学術集会の案内を配信 (2015年9月現在: 1,440件)

- 2) 日本血液学会ホームページ
  - ・WEBセミナー: 教育講演 (第76回日本血液学会学術集会) のWEB版を会員専用ページに掲載 (2015年4月号の日血ニュースで案内)
  - ・診療関連: エクリズマブ適正使用声明文 (2014年11月)  
成人に対する骨髄穿刺の穿刺部位に関する注意文 (2015年8月)
- ※2015年9月号配信段階でテキスト版・HTML版を合わせて、配信数は6,266件 (事務局分を除く実質配信数): 昨年配信数 (5,936件) より330件増加
- ※日血HPにバックナンバーを掲載  
TOP画面右ツールバー>日血ニュース (メール便)  
<http://www.jshem.or.jp/nnews/index.html>
- 3) 研究室紹介の開始  
理事会より要請のあった研究室紹介を「臨床血液」に順次掲載予定。
- 4) 名誉会員、功労会員からの寄稿について
- 5) HPサーバーの一元化について  
現在、本学会HPのデータサーバーは5つのサイトに分かれて稼働しており、全てを学会で一元的に管理運用するシステム構築のための準備を開始する。

## 賞 等

- 1) 奨励賞 (第76回日本血液学会学術集会発表): 副賞各30万円
  - 青木 一成 (京都大学 血液・腫瘍内科学)  
節性末梢性T細胞リンパ腫に対する同種造血細胞移植における強度減弱前処置
  - 青木 智広 (名古屋大学 血液・腫瘍内科)  
縦隔原発大細胞型リンパ腫における胸水/心嚢水貯留の予後因子としての重要性と治療の最適化
  - 飯島 一智 (国立成育医療研究センター小児血液-腫瘍研究部)  
キメラ遺伝子陰性小児ALLの治療反応性、予後と相関する遺伝子発現とDNAメチル化パターンの解析
  - 石原 誠人 (東京大学 新領域創成科学研究科)  
質量分析による定量膜プロテオーム解析を用いたHTLV-1関連疾患に対する治療標的分子の探索
  - 片岡 圭亮 (京都大学 腫瘍生物学)  
成人T細胞白血病リンパ腫の遺伝学的基盤の解明
  - 昆 彩奈 (京都大学 腫瘍生物学講座)  
MDSにおけるコヒーシンプラスウェイ遺伝子の網羅的変異解析および機能解析
  - 下山 格 (岩手医科大学附属病院 血液・腫瘍内科)  
ダサチニブは免疫性血小板減少症マウスモデルの治療に有効である
  - 武石 昭一郎 (九州大学 生医研 分子医科学)  
p53を欠損させたCML幹細胞はニッチ制御の変化により癌遺伝子依存性となる
  - 森 康雄 (九州大学 病態修復内科学)  
ヒト赤芽球系特異的前駆細胞の単離
  - 吉里 哲一 (京都大学 腫瘍生物学講座)  
再生不良性貧血・二次性骨髄異形成症候群におけるクローン構造の継時的解析
- 2) 白血病研究基金助成 (学会推薦)
  - 青木 一成 (京都大学 血液・腫瘍内科学)
  - 吉里 哲一 (京都大学 腫瘍生物学講座)
- 3) 日本学術振興会 育志賞 (学会推薦) 該当者なし
- 4) 第4回日本血液学会賞: 副賞100万円  
中内 啓光 (東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター)

## 倫 理

演題登録時の倫理チェックを検討

## COI

### 1) COI 自己申告の実施

- ・本学会主催の学術集会、講演会（発表者全員）
- ・本学会機関誌（臨床血液、IJH）などで発表を行う著者全員
- ・本学会役員（理事長、理事、監事）、学術講演会会長・次期会長、地方会学術集会会長・次期会長、各種委員会のすべての委員長、特定の委員会委員など）

※役員 COI 自己申告書について、COI 委員長並びに副委員長による調査を実施

### 2) 啓発活動、その他

- ・学術集会における教育講演
- ・社会的要因や産学連携に関する法令の改変による COI 細則などの見直し